

# 多相生命表を利用した配偶関係別将来人口推計

## Population Projection by Marital Status Using Multistate Life Tables

石井太<sup>1</sup>・別府志海<sup>2</sup>・余田翔平<sup>2</sup>・岩澤美帆<sup>2</sup>・堀口侑<sup>3</sup>

(1.慶應義塾大学, 2.国立社会保障・人口問題研究所, 3.慶應義塾大学・院)

ISHII Futoshi<sup>1</sup>, BEPPU Motomi<sup>2</sup>, YODA Shohei<sup>2</sup>,  
IWASAWA Miho<sup>2</sup> and HORIGUCHI Yu<sup>3</sup>

(1. Keio University, 2. National Institute of Population and Social Security Research,  
3. Graduate Student at Keio University)

ishii-futoshi@keio.jp

配偶関係は基礎的な人口構造の一つであり、婚姻状態や離死別に関する状況を表すのみならず、出生力や世帯構造などの分析にも用いられることから、その将来推計を行うことは人口学的に重要な課題である。国立社会保障・人口問題研究所によるわが国の公的将来推計では、「日本の世帯数の将来推計（全国推計）」の中で、将来の配偶関係別人口の推計が行われている。これは、世帯の動的モデルである世帯推移率法によって、将来の世帯数の推計を行うものであるが、推計すべき状態として配偶関係と世帯内地位の組み合わせを考え、この状態間の推移確率を設定することにより推計を行っており、この過程で配偶関係別将来人口が推計されている。「日本の世帯数の将来推計（全国推計）」では、2015～2040年の5年ごとの世帯数を推計するため、この期間内における5歳階級別配偶関係別人口を5年間隔で推計し、これに世帯内地位を組み合わせて推計を行っており、このため、配偶関係間推移確率行列として、2015～2020年、2020～2025年などの5年間における5歳階級の推移確率を設定している。また、国立社会保障・人口問題研究所の「日本の将来推計人口（平成29年推計）」では、将来の出生仮定の設定にあたり、女性のコーホート別の年齢別初婚パターンの将来推計を行っているが、この将来推計結果は世帯推計における配偶関係間推移確率行列にも反映されている。

一方、将来推計とは独立に、配偶関係の分析を行う観点から、人口学分野では結婚の生命表分析に関する様々な研究が蓄積されてきた。例えば、未婚者が死亡と初婚という二つの要因によって減少していく様子を多重減少生命表によって表した「初婚表」、配偶関係による死亡水準の違いを表現する「配偶関係別生命表」、夫婦単位の結婚生活の解消を、離婚、夫の死亡、妻の死亡という3つの要因による多重減少生命表で表した「結婚の生命表」などが挙げられるが、最も包括的に配偶関係と結婚を表す生命表分析として「配偶関係（結婚）の多相生命表」がある。通常生命表が生存と死亡という二つの状態のみを考えるのに対して、多相生命表とは、生存を複数の状態に分け、その状態間の遷移と死亡による減少を対象とした生命表であり、配偶関係の多相生命表では、未婚・有配偶・離別・

死別という状態を考え、この状態間の遷移確率を用いて、配偶関係の変化を生命表形式で記述できることから、ある時代や社会において人々が経験する結婚のライフコースやその変化を総合的に記述することが可能となっている。わが国における配偶関係の多相生命表については、高橋(1995)や別府(2002)のような先行研究が存在している。

このように、配偶関係の記述に優れた多相生命表について、その将来推計を行った上で、これに基づいた配偶関係別将来人口推計を行うことも可能である。その際、「日本の将来推計人口（平成 29 年推計）」の年齢別初婚パターンの将来推計をこの多相生命表の将来推計と組み合わせるとともに、配偶関係別人口から生じる死亡数を将来推計人口の死亡数と合わせることで、日本の将来推計人口及びそこで用いられている初婚関数と整合性の高い配偶関係別将来人口推計を行うことが可能となる。また、多相生命表の将来推計を行うことから、配偶関係別将来人口推計の背景となる、将来の結婚のライフコース変化などについても示すことが可能となる。

当日のセッションでは、このような方法論に基づき、多相生命表を用いた配偶関係別将来人口推計に関する試算結果等を示すこととしたい。

#### 参考文献

- 国立社会保障・人口問題研究所(2017)「日本の将来推計人口（平成 29 年推計）」。  
国立社会保障・人口問題研究所(2018)「日本の世帯数の将来推計（全国推計）（2018(平成 30)年推計）」。  
高橋重郷(1995)「結婚の多相生命表」山口喜一他(編)『生命表研究』古今書院, pp.202-223.  
別府志海(2002)「多相生命表による結婚のライフサイクルの分析:1930, 1955, 1975, 1995 年」『人口学研究』第 30 号, pp.23-40.